

インターバンクの声（2015 年 10 月 23 日）

注目された欧州中央銀行（ECB）理事会は、ドラギ総裁が記者会見で新たな金融緩和策を早ければ 12 月の理事会で発表する可能性を表明し、ユーロが対主要通貨で大幅下落した。理事会が始まる前は 1.13 ドル台で取引されていたユーロだったが、総裁がいくら中央銀行の預金金利引き下げの可能性まで述べたからと言って、1.11 ドルを割るような水準までの下落はとても予想出来なかった。ユーロが大幅に下落する一方で、仏 CAC や独 DAX は当然ながら大きく上昇。英 FT だけはポンドが対ユーロで値上がりしてしまった煽りを受けて上昇幅は僅かになってしまった。ニューヨーク時間では、日米で売り上げを大きく落としているマクドナルドの 7-9 月期決算が中国の需要回復を背景に良好となり、NY ダウの大幅上昇に寄与したようだ。昨夜のユーロを中心とした大幅な為替水準の変化が来週も続くかどうか、まずは米連邦公開市場委員会（FOMC）が次の鍵だが、ドル円にとっては月末の日銀金融政策決定会合でサプライズがあれば 1 ヶ月以上遠ざかっていた 121 円台回復の可能性も小さくないだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。